

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0171400898), 法人名 (有限会社 ベストケアサービス), 事業所名 (グループホーム高丘(Aユニット)), 所在地 (函館市高丘町53番8号), 自己評価作成日 (令和4年10月3日), 評価結果市町村受理日, 令和5年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigvosyoCd=0171400898-00&ServiceCd=320

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「個の尊厳」を理念とし個別ケアに力を入れている。新型コロナウイルスの影響で、研修の参加は出来ていないが、内部研修を行い職員のスキルアップを図り、行事や外出の機会が無くなってしまった為、ホーム内での楽しみを増やしていけるよう心掛けている。同法人のグループホーム香雪園と連携している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和4年11月11日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の周辺は函館市内でも落ち着いた住宅街であり、徒歩圏内に大学や小中学校、幼稚園などが点在するなど文教地区とも呼ばれており、すぐ近くには紅葉で有名な香雪園が散歩コースという静かで閑静な環境下に立地している。設立は介護保険施行後の2003年で当地で20年が経過し、事業所も同じ住民としてあいさつや道路清掃等々を日常生活の一環として携わり、また地域として災害防止に取り組むなどにより密接な信頼関係が築かれている。母体法人は長年介護事業を担ってきたことから介護の実体と現状を熟知しており、近くにある同系列のグループホーム香雪園と共に、「個の尊厳」という理念の実現を目指し、自分達が思い描く介護を追求実践している。介護への取り組みの基本姿勢に注目すると、「個の尊厳」の具体的例として、本人の意向を尊重したケアプランの作成と評価であり、事例では毎日の入浴実践への取り組みを挙げたい。お風呂に入りたい人は毎日でもいいよ、の体制を示すことで介護側の都合を排し、本人の意向の尊重に大きく寄与している。理念の筆頭にある「個の尊厳」を利用者一人ひとりの個性として理解・尊重しながら介護に取り組んでいる「グループホーム高丘」に今後も期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 describe various service outcomes like staff understanding, user safety, and family satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I.理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 個の尊厳となごみを大切にし理念を職員全員が共有し実践できるように努めている。 | 個の尊厳を含め5項目からなる基本理念を事業所内に提示し、利用者やその家族、職員等関係者に示している。また新人研修でも理念に触れ、実践で忘れないよう、現場で活かせるよう、具体例を挙げながら説明している。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している | 近隣の方に日常の挨拶や雪かきなどを返し自然な付き合いをしている。 | 地元近隣との関係性は日頃の活動等で強く維持されている。コロナ禍で自粛中だが、普段では地域のお祭りや伝統の七夕の行事では多くの子供達も参加し、また除雪や道路清掃等で地域の一員として活動している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 運営推進会議を利用して協力してきたが新型コロナウイルスのため、活かされていない。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議では、利用者の状況、平均介護度、年齢、行事の報告、今後の取り組みなど話し、情報、意見交換をし、その後、職員会議などで話し合っていたが新型コロナウイルスの為、令和2年3月から行っていない。 | コロナ禍であり第三者を入れ直接話し合う会議は全面的に自粛中である。予定されていた月には事業所の情報や報告を送付し、サービス向上に努めている。 | |
| 5 | 4 | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 生活保護の担当者が数か月に一度面会に来ていたが新型コロナウイルスの為、電話での説明になっている。 | 介護保険の担当者や生活保護職員などの行政とは信頼ある関係を築いており、電話やメール等で情報を交換している。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠は、一般家庭同様、夜間から朝のみ施錠。各居室の施錠は行ってない。3か月ごとに身体拘束適正委員会を開き職員間で再確認をし、あつてはならないと認識している。 | 身体拘束防止委員会を3ヶ月ごとに開催している。内容的には現状の介護実態を検証し、不適正ケアの事例検討や拘束の予防方法等々、検討を行いながら拘束虐待等々はあつてはならないケアとして認識確認している。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 研修の参加は出来ていないが、あつてはならないとこだと認識し研修資料でレポート提出している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修の参加はしていない。現在、成年後見制度の入居者様2名おり、職員全体で学んでいく必要がある。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 重要事項説明書などを活用し、本人や家族と話す機会を設け、理解や納得して頂けるよう努めている。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 話しやすい雰囲気心がけ、関わりの中から気付いたことや家族に電話連絡し気兼ねなく話していただけるよう努めている。 | 利用者の生活の様子を高丘便りとして手紙形式で家族宅に送っている。コロナ禍で制限はあるが、家族の訪問時には何でも話してもらえるよう、雰囲気作りにも考慮し、意見や苦情を徴集している。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日々の中で気付いた事を確認している。進んで提案してくる職員もいる。 | 毎月の会議や毎日の申し送り時に忌憚のない意見交換が行われている。必要に応じて管理者や代表とも職員面談の場を設定し、意見や提案を受け入れている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎日の業務報告の中で職員の声を聞いている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 新人指導を行い指導記録を作成している。指導する職員も一緒にスキルアップを図っている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修があれば参加を薦めていたが、コロナウイルスの為、参加していない。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 利用相談時に現状、不安、希望の把握に努め見学や、訪問を通じて本人に安心し納得して頂くように努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 利用相談時に現状、不安、希望の把握に努め見学や、訪問を通じて家族に安心し納得して頂くように努めている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談を受けた際、利用者の状況を確認しながら自施設のみ薦めず、利用できるサービスの説明を行っている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除や食事の手伝いなど自宅で生活していた時のような場面を作り関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 新型コロナウイルスの為、面会の制限はしているが電話や、写真付きのお便りを送りご家族に近況報告をしている。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ感染予防のため、外出は出来ていないが電話での交流はしている。 | コロナ禍で実施困難だが、馴染みの場所や友人、家族との時間を大切に重ねられるように支援し、家族との外出等のひとり一人の今までの暮らしが途切れないように努める必要を感じている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員が利用者様同士の関係性を把握しているため表情や、仕草を見て間に入り落ち着いて過ごせる場所を提供している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 関りが必要とされる場合は、必要な情報や支援に努めている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご本人から希望や意向を聞き、職員間で情報の共有し把握に努めている。 | 毎日の生活を支え、嫌な事や好きな事等々を把握し、職員間で共有、本人の意向に沿った暮らしを支援している。困難な場合でも仕草や目線、表現を頼りに本人本位になるよう検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 家族の協力も得ながら、アセスメント表の活用で把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日の申し送り、個別ケース記録にて現状や変化の把握に努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | ご本人、ご家族から聞き取り情報を集めモニタリングやミーティングを行い、それぞれの意見を反映させた介護計画が作成するように努めている。 | ニーズに沿った介護計画を策定するため職員間で検討し、家族や医療の意見も参照する等、現状に合った介護計画を作成している。また病気などで変更が生じた場合は速やかに現状に即した計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | カンファレンスシートを使用して介護計画の見直し、申し送りやミーティングを通し情報の提供に努めている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 買い物など、サービスや希望を柔軟に出来るだけ対応するようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 近隣小学校からカレンダーを頂いたり年に2回の避難訓練では地区の消防署からの協力を頂いている。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力医療機関の説明を行いながら、馴染みのかかりつけ医を確認しご本人、ご家族の希望に沿って受診の支援、または訪問診療の説明もしている。 | 協力医の往診が月2回、訪問看護師は週1回の検診があり職員は医療的相談やアドバイスを受け利用者の健康を守っている。また24時間オンコール体制で夜間や緊急時の対応に備えている。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 訪問看護ステーションと契約しており、週1回訪問していただいていたが、コロナ感染拡大の為、FAX又は電話で相談、報告をしている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 担当医の説明をご家族と共に聞き、職員間で情報を共有している。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 担当医とご家族との話し合いを繰り返し、都度ご家族に説明し支援に取り組んでいる。 | 終末期の介護は本人・家族の希望により応じる旨入居時に説明し同意を得ている。協力医と家族、事業所で話し合い支援体制を整えており、利用者のほとんどが看取りを希望している。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時マニュアルは作成しているが、初期対応訓練は行っていない。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年に2回避難訓練を実施し緊急連絡網を作っている。 | 避難訓練について消防の指導で年に2回実施し、地域的な防災も地元住民と合意を得ている。また食料の備蓄、冬季暖房装置の整備も取り組み、不意の災害に備えている。 | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 「個の尊厳」を理念とし、個々に合わせた声掛けや対応を意識し、プライバシーの確保に努めている。 | 声掛けや呼び名に注意し、いつも礼節を失わないように心がけ、職員間でもお互いに気にかけるようにしており、尊厳を大切にケアに取り組んでいる。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | ご本人の思いや希望を優先し自己決定が出来るよう支援している。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者様の体調や状態に合わせ支援している。意思疎通のが難しい時は表情で確認しながら行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人の希望に沿った身だしなみに対する支援を行い、受診で外出する時は、いつもと違う服装で行っている。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 手作りおやつを作ったり、お寿司をテイクアウトしている。食器拭きなど出来る範囲でのお手伝いをお願いしている。 | 食事の準備や後片付けに利用者の誰でもがお手伝いで参加できるように努め、みんなで楽しい食事になるように取り組んでいる。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | ケース記録に食事量を記入し個々のバイタルチェック表に1日の水分量を記入している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後に行っている。義歯は毎晩回収し洗浄剤につけ消毒おり、場合によっては歯科医の往診で診てもらっている。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄パターンの把握に努め、さりげなくトイレ誘導している。 | トイレでの排泄を基本とし、排泄サインの共有によるトイレ誘導、時間による誘導等、その利用者個人に合わせた方法で、自然な排泄支援になるよう取り組んでいる。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 水分補給を心がけ担当医に相談し、ご本人に合った薬を服用して頂いている。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | ご本人の希望に沿った入浴を心がけている。 | 毎日いつでも誰でもが入浴できる体制を維持しており、週に2回以上を目標に努めている。入浴拒否者には無理強いすることなく、臨機応変に対応している。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 利用者様のペースを第一に考え、日中も休息できる時間を提供している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬事情報を確認し、症状によっては担当医に相談している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々の趣味を把握し毎日の生活の中で喜びや楽しみを感じて頂けるよう支援している。 | | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 新型コロナウイルスの為、外出の制限を行っているためホーム回りの散歩の機会を作り支援している。 | コロナ禍であり外出や集団行動が困難となっている。平素であれば市内や近郊には桜の名所や素晴らしい景観が至る所にあり、ドライブ等で楽しんでいる。また日々散策し、行きかう人と挨拶を交わしながら、閉じこもらない介護に取り組んでいる。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 利用者様の状態を考慮し、家族の了解を得てこちらで管理している。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望があれば電話などの支援をしてご本人の思いを尊重している。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居間や玄関に季節の花を置いている。温度調整や光の加減などを調節し、入居者様と一緒に作った掲示物を飾っている。 | 居間の広さと明るさの中に大型ソファが並び、利用者の居場所となり、折り紙の作品が季節感を表わし、過度な装飾もなく、また季節感に富んだ飾り付けなど家庭的雰囲気を醸し出している。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 居室でテレビを見たり、居間で利用者様同士会話したり、ゆっくり出来る場所を提供している。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族と相談し、ご本人の安心できる物や、馴染みの物を持参して頂いている。 | 居室は適正な広さが確保され、動線に注意した配置で馴染みの家具が置かれており、また壁には家族写真も貼られ、自分の部屋としてゆっくり過ごせる工夫となっている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 各場所に設置されている手すりを使用し自立した生活が出来るよう支援している。 | | |